



原子力災害の発生を想定した 東海村広域避難訓練

6月24日、原子力災害の発生を想定して、村と協定を結ぶ避難先自治体(取手市・守谷市・つくばみらい市)への避難を試行する「東海村広域避難訓練」を実施しました。この訓練は、村外への避難が必要な事態における避難場所・方法等を定める「東海村広域避難計画」の策定に当たり、緊急事態の進展に応じた対応・体制の確認や住民に対する避難方法等の周知、避難の実動を通して、同計画(案)の検証と実効性向上を図るために行われたものです。

【問い合わせ】防災原子力安全課消防防災・原子力安全担当(☎282-1711 内線1524)





一人ひとりの実情に合わせた避難訓練

村では災害対策本部を立ち上げ、防災行政無線や緊急速報メール等で住民に避難を呼び掛けました。広域避難においては、自家用車での避難を原則としていますが、自家用車を所有していない方や、長距離の運転が困難な方がいることを考慮し、訓練上の一時集合場所である石神・中丸両コミュニティセンターに地域住民(約140人)が参集。バスでつくばみらい市谷和原公民館へ避難しました。また、今回の訓練ではグループホーム入居者や在宅の避難行動要支援者の避難にも取り組み、避難行動要支援者(12人)が、村職員と消防署員、自衛隊員、東海村社会福祉協議会職員、グループホーム職員の支援により、谷和原公民館へ避難しました。



▲訓練終了後、合同記者会見をする山田修村長(写真右)と小田川浩つくばみらい市長(写真左)

訓練全体を振り返り、「広域避難計画は策定することが目的ではなく、計画に基づき村民一人ひとりが行動できることが大切」と話した山田村長。今後の訓練に関しては、「自分自身で判断して行動することを体で覚えてもらうことが重要であり、今後もこうした訓練を実施していきたい」と話しました。

村内小学生が訓練に初参加

今回の訓練では、石神小学校と村松小学校の6年生(約80人)が学校で安定ヨウ素剤の配布と説明を受けた後、実際にバスでつくばみらい市みらい平コミュニティセンターへ避難しました。その後、児童たちは、避難先で炊き出しや防災講習を受けました。

初めて行われた児童引き渡し訓練

当日は保護者にもご協力いただき、学校での児童引き渡しができなかった想定の下、避難先での児童引き渡し訓練を行いました。初めての訓練で不安もある中、「無事に(子どもたち)会えて良かった」と^{あんど}安堵した様子も見られました。避難所では炊き出しが行われ、災害時用非常食や、株式会社カスミから提供を受けた物資が配られたほか、自衛隊による装具等の展示も行われ、防災に対する意識を高めることができました。

